令和４年度　第１回　室蘭市緑化審議会　会議記録（要約版）

１　開催日時　令和５年２月17日（金）15：00～
２　開催場所　室蘭市防災センター３階　視聴覚室
３　出席委員　川村　志麻、松岡　大輝、高橋　泰明、時田　昭子、阿部　浩一、
高尾　英輝、木村　武久、平野　惠市（敬称略）
４　欠席委員　髙橋　宜久、安藤　則昭、松田　　潤、野村　　滋、藤田　　清、
三宅　　洋（敬称略）
５　事 務 局　都市建設部長 佐藤　一徳、土木課主幹　船山　卓郎、
都市政策推進課長　稲場　英憲、都市政策推進課都市政策推進係主査　北村　祐貴
土木課管理係長　本山こずえ、土木課管理係主査　後藤　基継
６　会議次第　１　開会
２　部長挨拶
３　委員紹介
４　会長および副会長選出
５　審議事項
(1) 室蘭市中島地区公園機能再編方針（案）の作成について
６　報告事項
(1) 室蘭市の緑化事業について
７　その他
８　閉会

７　会議内容

(1) 開会	（土木課主幹　船山）
(2) 部長挨拶	（佐藤都市建設部長から、開会に当たり挨拶）
(3) 委員紹介	（委員の紹介及び、事務局職員の自己紹介）
(4) 会長・副会長選出	（会長に川村委員、副会長に髙橋宜久委員を選出）
(5) 審議事項 事務局説明	（「室蘭市中島地区公園機能再編方針（案）の作成について」資料に沿って説明）
（質疑応答） 会長	公園機能再編について、発端は人口減にありそれにどう対応するかという事と今回の公園との関連について位置づけを示されたい。 また、大学の研究成果がベースとあるが、責任所在は大学なのか市なのか判りにくいため説明を望む。

事務局　人口減により金銭・人的資源の両面から現行管理体制の維持は困難であること、また、公園のニーズ変化に伴い、地域資源としての公園のあり方の見直しが

事務局　求められている。

会長　地域資源としての公園を有効活用して、室蘭市の人口減を食い止める定住策とするということか？

事務局　公園の価値を高めることで街自体の価値も高まるものと考える。
大学との関係では、市から大学（研究室）に公園と住民参加について研究・アンケート収集等を依頼したもの。

会長　受託研究という事か

事務局　仰せのとおり。

会長　資料作成にあたり、どこに責任所在があるのか整理しておくべき。本方針の作成主体が市なのか資料にある研究室なのか、そこははっきりさせて置かないと、研究室の名前だけが一人歩きする。大学の活用は大いに望むが、公表資料等での扱い方は気になるところ。

事務局　仕上げまでに各所調整する。

Ａ委員　町会活動での経験だが、公園に毛虫が出るという苦情に対し、従前は駆除については町会役員が行うだけで、その他の地域住民の参加はなかった。また街路樹の伐採に至っては市に苦情をいうだけで誰も自ら伐採するという話が出なかった。
これでは困るので、市とも相談したが、住民の意識の変化が必要で、草刈りや街路樹の伐採などを町会だけではなく地域住民に呼びかけて実施し、発生残渣を市で処理するという方法を取ったところ、翌年から毛虫も発生せず、街路樹の剪定等も地域住民が率先してするようになった。
公園の再編のことも同じで、中島公園は市全体としてのニーズに併せ、その他の街区公園については地域住民に現状を詳しく説明し、どうしていくのがよいか地域住民が主体となって考えていくべき。
方針を定めるときに、地域住民の意識の確認をし、それを市が応援していくという形態が望ましく、従前の市が作成して地域にお願いするというのは難しい。

事務局　当時Ａ委員から相談を受け、実際に携わった者としては、申し出は非常にありがたく感謝に絶えないところであり、市でやるべき所を地域の皆様に協力頂くという事で、残渣の処分等の調整をさせていただいたところであり、現在もそれで

うまく回っていると認識。
　しかし他地域では同様にご協力頂いてきた所からも、高齢化でなかなか手が集まらなくなってきたというご相談や、協力したいけど人手が集まらないという実態もあり苦慮するところ。
　しかしながらＡ委員のお話のとおり、地域住民が中心にならなければ回らないので、高砂地区の事例も踏まえながら、よいあり方の模索を地域住民の皆様と協力して新たな公園再編に取り組んでいく所存。

会長　地域住民の協力は欠かせない。また如何に新しい人、若い人を取り込んでいくか、という視点も必要。大学を利用する、小中学校に活動の環を広げるなども考えられ、様々な方向で知恵を出しより良いものを作るというスタンスで審議会を進めていきたい。

Ｂ委員　Ａ委員の話の通り、町内会でも作業するのは限定的な人だけになる。
　そんな中で昨日の新聞記事で公園の命名権の取得の代わりに維持管理を行う企業の話を読んだ。高所作業などで公園の維持管理には機械力が必要なので、企業の参加は歓迎したいところ。
　また、公園の再編の点では、目的用途をはっきりしたイメージづくりが大事と考える。公園だからこう、という固定概念に捕われず、特徴付けをして、見て楽しむ公園、運動する公園、といったようなテーマ分けが必要。中には廃止の選択も有りと思う。
　願わくば、芝生は青々としていてほしいが、管理が大事。そこでネーミングライツ事業者とのタイアップと町内会のボランティア連携など、きめ細やかな管理体制が出来れば素晴らしい公園になる。

Ｃ委員　提示された方針案がデータの提示や取り組みの例などを提示しているがただの現状分析にとどまっており、再編という言葉にそぐわない。再編というならば、リニューアルする、機能集約するといったような議論をした結果と考える。
　そういう意味で本資料はまだ練りこまれていないように思う。
　方針というのは市民に向けて話をする時に、室蘭市としてはこう考えています、というもので、ただこれは大きな方向性であり、市民の皆さんの声を反映して具体的な形を作るもの、として提示する内容であるべき。

Ｄ委員　提示された内容は中島地区だけだが、今後その他の地区も同様に再編を行うのか？
　また地域住民の参加というが、やって良いこと悪いことの区分が難しい。

事務局　廃止された旧体育館の保安のこともあり、今は中島地区を先行して再編していく考え。いずれは全市的という事も考える。
　また、地域住民の方のご協力については市土木課に相談の上実施いただければ

そうした問題は解決できると思う。

Ｅ委員　人口減少が見込まれる中で、これまでとは異なる公園の活用をすることで地域活性化に繋がり、結果人口減への歯止めがかかる、という、この部分が大きなポイントであると思う。
公表時にこうしたポイントは大々的に呼びかけるべきで、地域には多くの団体等があるので、その方々に「さまざまな活用法」に気づいてもらうのが大事。
今まで屋内でやっていたことを外（公園）で行えばコロナ対策にもなるし、学校のグラウンドでやっていたことを公園でするなども考えられる。とかく利用を増やすことで環境づくりにも係わってもらえる可能性がある。
実際高砂地区では小中学生と地域関連団体との係わりも生じている。
こうした取り組みが全市的に波及することで室蘭の再活性化が図られるのでは。

Ｂ委員　公園を「中から見た視点」だけではなく、公園を「外から見た視点」というのが大事だと思う。道路から公園の中が見えるような整備が必要。
そのためには公園のみならず、道路その他周辺環境の論議も必要。

会長　本審議会会長職は都市計画審議会の委員にも就くこととなっているため、そちらにも今の意見は伝えたいと思う。
意見が出そろったため、審議事項「公園機能再編方針（中島地区編）の作成について異議は？

委員一同　異議なし

会長　異議なしとのことですので、事務局は本審議会で出た意見等を参考に再編方針の作成を進めること。
続いて、報告事項について事務局より報告を願う。

(6) 報告事項
事務局説明　（「室蘭市の緑化事業について」資料に沿って説明）

（質疑応答）
Ｂ委員　花壇は整備維持に労力がかかるため、植込み後の手入れがされていない所がある。今後も継続するなら、ツツジや宿根草などを利用し、労力を低減する工夫が必要。

会長　今後を考えると、（高齢化に伴い緑化事業を継続実施して）行う上ではかなり限界が来ており、今後抜本的な対策・考え方へ移行する必要を感じるが事務局の考えは？

事務局　委員意見のとおり、地域の皆様に手をお借りしてきたが、「（高齢で）もう動けないから続けられない」という声を頂いている。
直ちにどうするという事は今すぐ言えないが、労力を削減しつつも満足度を維持するということを念頭に置き事業を進めていく所存

Ｄ委員　軽スポーツ等の練習のため、公園の地面に（許可を得て）穴を掘っている実態があるが、もう使わなくなったという時に元に戻さない人がいる。
許可を得て穴を掘ること自体は法的に規制できないとのことだが、その管理については適正な指導が必要。公園は子供も遊ぶし、高齢者の健康維持のための散歩等もある。（安全に）のびのびと歩ける場所は必要。

事務局　各町会等を通して指導していきたく考える。

Ａ委員　室蘭市は観光都市として観光に力を入れるという。実際室蘭は工業都市でありながらも多彩な植物があり、天然記念物の自生もあるが、管理の問題で現在はどんどん笹薮になっている。
他都市ではクラウドファウンディング等を利用して、行政のみならず地域住民が力を合わせて環境の維持回復に務めた。同様のことを室蘭でもやっていく必要がある。室蘭の観光振興と緑化は切り離せないものと考えるが。

事務局　観光振興計画というものがあるが、その中で今話のあった地区も重点ゾーンとしての位置づけがあると認識しており、緑化事業や維持管理も大事ではあるが、今すぐ具体的な方策を示すことはできないため、今後庁内連携しつつ考えたい。

会長　時代も変化し、如何に有効に資金を集めて運用するか、という事を考える必要がある。市もネーミングライツ等新たな取り組みをしているが、市民のアイディアの中には有用な情報もあるため、市の運営に反映願いたい。
本日の審議会について議事録の要約版を事務局で作成し、市のホームページで公開するので了承願う。

（閉会）

以上